

平成24年度 歴史民俗資料館の管理運営に対する評価票

所管課：教育委員会 社会教育課

評価対象期間：平成24年4月1日～平成25年3月31日

評価委員会開催日：平成25年10月25日

1 指定管理者

指定管理者	株式会社日立ビルシステム
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日（5年間）
施設概要	発掘による埋蔵文化財や、市民から寄贈された農具、民具などの民俗資料が多くあることから、これらを収蔵し、展示、公開するとともに、長年にわたり伝えられてきた民話の紹介などイベントの開催やリーフレットの発行などにより、特徴ある郷土の歴史、文化をより深く理解し、誇りと親しみを感じてもらうことを目的とする。
指定管理料	9,987千円（5年間計49,935千円）

2 管理運営の内容

項目	24年度の状況
運営状況	<p>○平等利用のための手法</p> <ul style="list-style-type: none">・職員に対する接遇教育や案内資料の整備、ミーティングを通じた意思統一などにより来館者への平等で均一なサービス提供に努めた。 <p>○自主事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none">・市との共催も含め、施設の特色を生かし、目的に沿ったイベントを重点に計画し、研修室を利用した「手作りに挑戦」や児童向けから、大人向け「フラワーアレンジメント」「歴史講座 歩いて学ぶ考古学講座」など各種イベントを年間計24回開催した。「夏の藍染めイベント」では、博物館実習生と協力して実施した（119人参加）。すべて職員が開発したものを手づくりで準備しているのが当館の大きな特徴である。・有料自主事業講座として「歴史講座 歩いて学ぶ考古学講座」は、本年度から館長が4ヶ年計画で入門考古学講座を実施、本年度は「旧石器時代」と「縄文時代」の座学を3回と7回を大阪府内と奈良県内の旧石器と縄文時代の遺跡を散策した。各遺跡から発掘調査で出土した遺物を各市教育委員会文化財施設及び博物館等で手にふれた。（参加者31名） <p>○情報提供</p> <ul style="list-style-type: none">・資料館のホームページにて、施設の紹介や催し物その他諸情報について、親しみのある表現で最新情報の公開に努めた。・ポスター及び市の機関紙や北河内のミニコミ誌で催しの案内を掲載し、広く市民の方々に知らせることにより、来館者の誘致を図った。・小学校3年生については、各学校（7校）に案内状を配布し、全7校と近隣市1校が来館して「昔のくらし」学習をした。毎年、畷古文化研究保存会の協力を得て昔の道具に触れる学習を進めている。6年生の「畷の歴史学習」については、ゆとり教育が解消されたことにより授業数が増加し、当館での学習が年々減少している傾向にある。ここ数年は、2校の来館学習となっている。・ポスター、市広報誌、当館HPなどにイベント情報を掲載。発掘調査速報展を随時開催。葛飾区議員一行の行政視察で資料館内を案内。韓国TJBテレビが四條畷の馬飼いを取材。日本経済新聞に田原レイマンの記事を掲載。特別展「水辺でくらす」開催中に産経新聞に讚良郡条里遺跡から出土した室町時代の鏡の記事が掲載され多数の来館があった。朝日新聞に田原城主一族の出土品及び千光寺刻印瓦を市指定有形文化財に指定したと展示会開催の記事を掲載。・弊社のHPに掲載し、指定管理業務を通じて四條畷の歴史的遺産を全国に紹介をしている。

	<p>○安全確保対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の際、弊社の緊急ネットワークが機能するように緊急連絡先を掲示。 ・トラブル発生の際の緊急連絡先及び緊急連絡対応体制の掲示を行い、国道163号沿いの当社門真営業所によるバックアップ体制を確立している。 ・常に会社と連絡をとり、業務フロー、緊急連絡先等の掲示と、ミーティングを適時実施し、常に状況に合わせた管理運営に努めた。特に安全面の注意事項は文書で確認し、注意を払っている。火災消火訓練・消防署通報訓練及び緊急時の避難訓練を毎年実施している。 								
維持管理状況	<p>○保守点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各設備の稼働状況に合わせた最適なメンテナンス計画を立て実施した。修繕に関しては、国の登録有形文化財に指定されている民俗資料展示室の床板の一部腐食部分の張替と身障者用トイレのドア修理を行った。 ・職員による蛍光灯交換、機器の状況点検など職員を動員した効果的な維持保全に努めた。 <p>○環境保全への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた空調温度の見直し、OA機器の適正使用、館内照明のLED化の推進、こまめな消灯の実施など、環境保全の推進と経費削減に努めた。 ・ゴミ箱の共用化、種類別の設置などによりゴミの分別と少量化に努めた。 ・紙印刷媒体を回覧して共有することで、紙の使用量を削減した。 ・毎年、四條畷市生活環境課へ当年度の環境負荷実態把握調査報告を提出している提出資料を基にして、職員ミーティングなどで環境負荷への意識向上を図ると共に、利用者向けにはポスターの掲示等により環境意識の向上を図った。 								
利用状況	<p>今年度は、市内はもとより市外からのみならず韓国からの研究者など多くの来館者があった。これらには、マスコミへの情報提供による効果もあったと考える。来館者には、指定管理者職員の説明でゆっくりと見学していただき、四條畷の歴史を広くPRすることができた。また、例年どおり6年生の「歴史」と3年生の「昔のくらし」の校外学習で、畷古文化研究保存会の会員の協力を得て子供たちが実物に触れる体験学習を実施した。</p> <p>前年度と比較し、利用者数は全体で0.3%の減少となったが、年間来館者数10,000名の目標を達成できた。</p> <table border="1"> <tr> <td>・学校・保育所</td> <td>1,702人(2.4%減)</td> </tr> <tr> <td>・一般団体</td> <td>1,139人(11.1%減)</td> </tr> <tr> <td>・個人</td> <td>8,105人(1.3%減)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10,946人(0.3%減)</td> </tr> </table>	・学校・保育所	1,702人(2.4%減)	・一般団体	1,139人(11.1%減)	・個人	8,105人(1.3%減)	合計	10,946人(0.3%減)
・学校・保育所	1,702人(2.4%減)								
・一般団体	1,139人(11.1%減)								
・個人	8,105人(1.3%減)								
合計	10,946人(0.3%減)								
収支状況	<p>当年度収入10,053千円（指定管理料収入：9,987千円、自主事業収入：66千円）に対し、支出9,987千円で、収支は66千円の黒字であった。</p>								

3 利用者へのアンケート調査

項目	24年度の状況
調査の実施内容	<p>対象：施設利用者 調査期間：平成24年4月1日～平成25年3月31日 調査方法：アンケート用紙と箱を展示室に設置。自由に記入してもらう 回答件数：196件</p>
調査の結果	<p>スタッフの対応：「満足」が約88% 「やや満足」を含めると約93% 展示の解説への対応：「分かった」が約76% 「だいたい分かった」を含めると約99%</p>

<p>主な苦情・意見等</p>	<p>小学生以下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工作やたのしいイベントがいろいろあってすごくおもしろかったよ。 ・ できるだけイベントは日曜や祝日がいいと思います。 ・ 四條畷のことが全部知ることができるイベントを開催してほしい。 <p>中学・高校生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ このままで充分勉強になります。 ・ 戦国時代の特別展を開催してほしい。 <p>19～39 歳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ また是非来たいと思います。大変丁寧にご説明していただきました。 ・ ガイドさんが親切に対応してくださり良かった。 <p>40～59 歳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの知識で誤りが多く判明しました。それと人間の文化のすばらしさを再認識しました。 ・ 少し勉強してからもう一度来たいと思います。 <p>60 歳以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四條畷にこのような財産があるとは、市の誇りですね。 ・ 良くしようと大変努力なさっている様で好ましく思っています。 ・ いつも楽しく見せて頂いています。イラストでホットさせていただきながら・・・。 ・ いつも準備、手づくり等感謝しています。 ・ 歴史講座は今後も是非開いてほしい。また、新しい遺跡発掘の折は是非見学会をお願いします。 ・ きれいに分かりやすく展示されています。説明も良かったです。
-----------------	---

4 施設の評価

管理運営の総合評価	○5 ●4 ○3 ○2 ○1
<p>講 評</p>	<p>来館者への「スタッフの対応について」のアンケート調査結果によると、回答数 196 件のうち 93%の方が「満足」・「やや満足」という結果であった。昨年度と比べると 3%増加している。</p> <p>施設の運営面では、年間入館者数が昨年度より 37 人減少の 10946 人であったが、目標の 10,000 名は達成できている。今年度は、市内はもとより市外からのみならず韓国からの研究者など多くの来館者があった。これらには、マスコミへの情報提供による効果もあったと考える。来館者には、指定管理者職員の説明でゆっくりと見学していただき、四條畷の歴史を広くPRすることができたことは、さらなる利用者増加への努力が伺える。また、例年どおり 6 年生の「歴史」と 3 年生の「昔のくらし」の校外学習で、畷古文化研究保存会の会員の協力を得て子供たちが実物に触れる体験学習を実施したことは、子供たちへ郷土の歴史・文化に触れる機会を提供するという点で今後とも全校が参加していくように広報に努めて継続してほしい。</p> <p>施設の管理面では、企業努力により経費削減に努力し、収支が黒字となっている点や、民俗資料展示室の腐食した床板の張替と身障者用トイレのドア修理を行っているなど来館者への安全確保に努めた点、LED 蛍光灯への変換や節電に努めることにより環境面への配慮も実施している。これらを総合的に判断すると「4」という評価が妥当であると考ええる。</p>

(参考) 評価の基準

- 5 計画内容を上回る結果 (担当部局として非常に満足できる結果)
- 4 計画内容をやや上回る結果 (担当部局として満足できる結果)
- 3 計画内容どおりの結果 (担当部局として妥当と判断する結果)
- 2 計画内容をやや下回る結果 (担当部局として不満が残る結果)
- 1 計画内容を下回る結果 (担当部局として非常に不満が残る結果)